



令和5年度鯖江商工会議所青年部



「介護にやさしいまちさばえ」を目指して

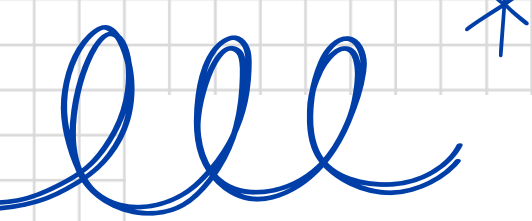


目次



1. はじめに(3P)
2. 「仕事と介護の両立」個人向けアンケート(4～5P)
3. 「仕事と介護の両立」企業向けアンケート(6～9P)
4. 「介護にやさしいまちさばえ」を目指して(10～12P)
5. 鯖江市LINE公式アカウントへの提案(13～14P)
6. 「仕事と介護の両立」に取り組む経営者を増やすために(15P)
7. 政策提言が実現した未来①(16P)
8. 福祉有償運送を運営する事業者への補助金(17～22P)
9. 政策提言が実現した未来②(23P)
10. 2つの政策提言まとめ(24～25P)





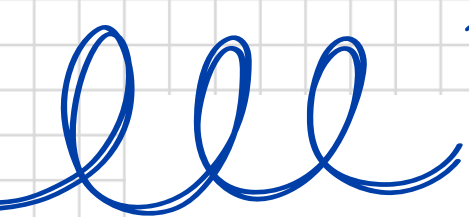
はじめに



私自身の経験から「介護で困っている人を少しでも減らしたい」という思いがあり、青年経済人の観点で「仕事と介護の両立」をテーマに令和5年度の政策提言活動を行ってきました。

個人、企業の両方からのアンケート、鯖江YEGメンバーとのディスカッションを経て、市民、企業、鯖江市の三方良しになるような政策提言をさせていただきます。

令和5年度政策提言委員会
委員長 石川 雄大



「仕事と介護の両立」**個人**向けアンケート

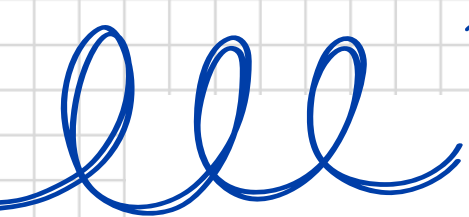


アンケートの内容は主に

- ① 現在、仕事と介護の両立をするうえで困っていることはありますか？
- ② 今後どのように仕事と介護の両立をしようと考えていますか？
- ③ 困っているが取り組みできていない理由は？
- ④ 鯖江市に介護の相談窓口があるのはご存知ですか？
- ⑤ 行政や勤めている企業への要望はありますか？



※157件のアンケート回収。



「仕事と介護の両立」個人向けアンケート



Q. 鯖江市に介護の相談窓口があるのはご存じですか？

A. 全く知らない(6割)

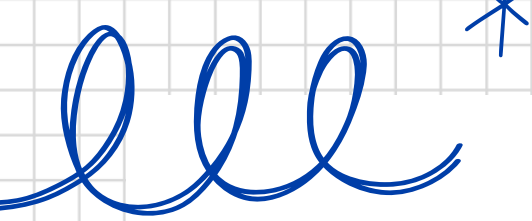
※地域包括支援センターの存在を知らない回答が多く、鯖江YEG内での認知度もかなり低かった。

事前に地域包括支援センターや勤めている企業へ相談をして

「**介護のプロにまかせられる環境づくり**」が

「**介護で悩む人を少しでも減らす**」ための一番の近道





「仕事と介護の両立」企業向けアンケート



アンケートの内容は主に

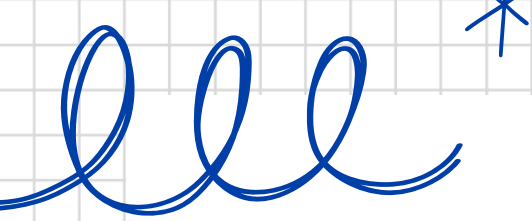
- ① 仕事と介護の両立についてに取り組んでいますか？どんな内容ですか？
- ② 介護休業制度や鯖江市独自の介護助成金を知っていますか？
- ③ 今後行政に「このような制度があったらいいな」というものは？

「もっと使いやすい補助金が欲しい」

「社員が介護で休むときの人材の補填があるといい」

→ 経営者からは**【補助金】【労働力の補填】**の声が多く上がった

※鯖江市内・市外企業から197件のアンケート回収。



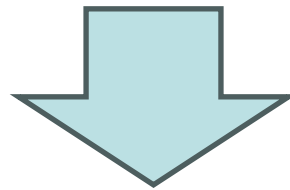
「仕事と介護の両立」企業向けアンケート



「もっといい助成金の案があるか？」

「人材の補填についての案はどうか？」

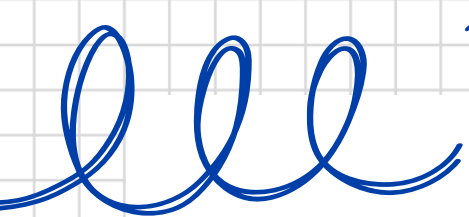
実際に委員会で考えてみたところ……



「実際の問題を解決するための案」

は非常に難しいのでは？





「仕事と介護の両立」企業向けアンケート



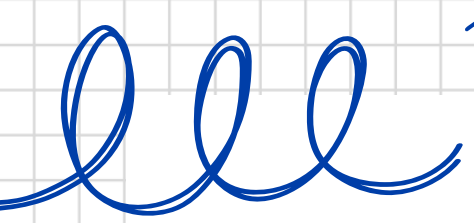
この部分に注目しました！

① 仕事と介護の両立についてに取り組んでいますか？どんな内容ですか？

・仕事と介護の両立について取り組めていない(7割)

※取り組んでいない理由はありますか？

・必要性を感じない。何をしたらいいかわからない(7割)



「仕事と介護の両立」企業向けアンケート



「仕事と介護の両立」に取り組む経営者を増やすことが

「介護で悩む人を少しでも減らす」ための一番の近道



令和5年度の政策提言として
「介護にやさしいまちさばえ」を目指して



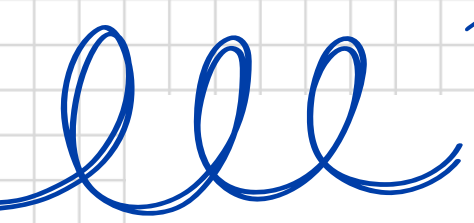
介護のプロにまかせられる環境づくり

「仕事と介護の両立」に取り組む経営者を増やす



仕事と介護の両立ができ、介護で困っている人を
少しでも減らすことに繋がる





「介護にやさしいまちさばえ」を目指して

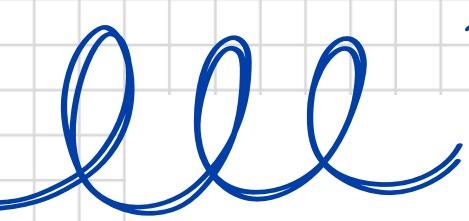


介護のプロにまかせられる環境づくりのために
地域包括支援センターのPRは必要不可欠…。



鯖江市LINE公式アカウントを
活用してはどうか？





介護のプロにまかせられる環境づくりのために



【個人向けアンケートより抜粋】

Q. 包括支援センターを利用されない理由があれば教えてください。

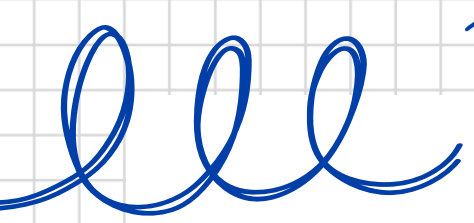
A. **何を相談すればいいかわからない(5割)**

A. **時間がない、相談しづらい(4割)**

仕事と介護に追われている人は時間がいくらあっても足りない生活になるため

「自宅にいながらもSOSを出せる」ツールとして

鯖江市LINE公式アカウントがベストだと考えた。



鯖江市LINE公式アカウントへの提案



【課題】

メニューから飛んだ先が市役所ホームページで必要な情報になかなかたどりつけない



【提案】

相談先に導けるようなメニューを組めるように作り直す

【参考】

都城市LINE公式アカウント



①



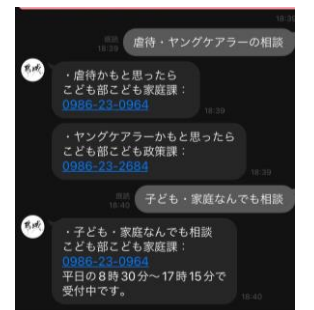
②

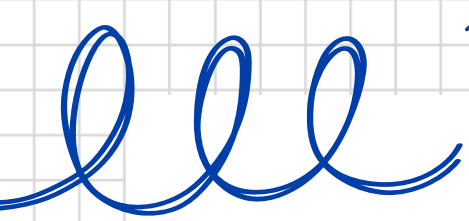


③



④



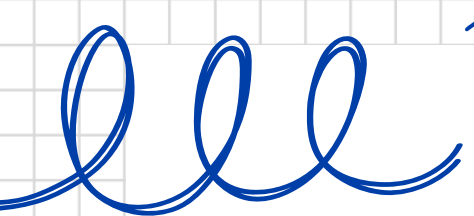


鯖江市LINE公式アカウントの充実によって



【期待される効果】

- ・地域包括支援センターが24時間対応可能というPRが5.3万人近くにできる
- ・現状困っている人がすぐに相談可能、今後困る人への種まきになる
- ・LINE公式アカウントが充実することで、鯖江市民の登録をさらに増やすことができる
- ・鯖江市民が多くLINE公式アカウントへ登録することで、今後の災害時の連絡等、多くの場面で活かされる



「仕事と介護の両立」に取り組む経営者を増やすために




「仕事と介護の両立」は個人だけの問題ではなく、企業側の準備も必要となるうえ、意識づけが非常に大事なことが調査でわかった。

そこで 

私たち鯖江YEGが作成した
「**経営者向けの仕事と介護の両立用資料**」を
鯖江市に提供し、LINE公式アカウントでPRしたり
関係各所と連携し、周知を図ってほしい。

「仕事と介護の両立」
～経営者が知っておくべき4つのこと～



～経営者が知っておくべき4つのこと～

- その1 **【1ヶ月従業員さんが抜けてもやりくりできる体制】が整えば、介護離職を防げる可能性は非常に高い！**
- その2 国や鯖江からの補助もあり **【金銭的な負担はほぼない】**
- その3 従業員が介護のことに悩んだら **【地域包括支援センターを紹介】**
年中無休24時間電話受付
- その4 経営者が介護休業関係で悩んだら **【顧問の社労士 or ふくい働き方改革推進支援センターへ】**

【個人の現状】

【企業の現状】

相談できる場所の周知が
されておらず悩みを吐き出す
場がわからない。

「仕事と介護の両立」に
取り組んでいない、興味
のない企業が多い



従業員はどこにも相談できずに
状況だけが悪化していく



「仕事と介護の両立」ができずに
苦しむ人が増える



急な離職や働き手の減少で
企業や鯖江市が困る可能性

【政策提言が実現した未来】

**鯖江市LINE公式アカウントが充実し
介護相談先の周知が進む**



介護で困ったときの
相談先がわかり、
困る前の準備が
市民はできる

仕事と介護の両立
の準備をする企業
が増える



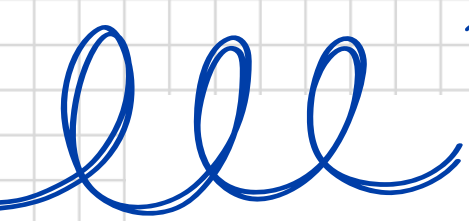
もしなにかあったときに
市民（もしくは従業員）はすぐ
相談ができ、経営者は回答ができる



**「仕事と介護の両立」ができて
市民、企業、鯖江市の
三方良しとなる**

令和5年度の政策提言として
もう1つ...





「仕事と介護の両立」 個人向けアンケート



Q.どのようなことに困っていますか？

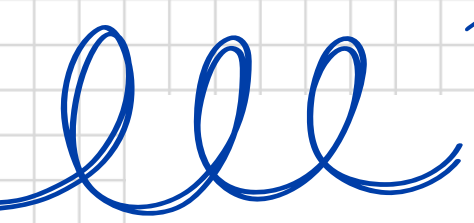
- ・介護のために早退や遅刻、欠勤しないといけない(約4割)

Q.今後行政にこのような制度があったらいいなというものはありますか？

- ・親が通院するのにバスの本数が少ないので増やしてほしい
- ・交通の便を充実してほしい
- ・高齢な親が2人居ると通院だけで有給休暇がなくなってしまう

遅刻、早退、欠勤のことについては経営陣としては解消したい部分でもあり

「高齢者が気兼ねなく、安心して利用できる交通手段が必要」だと考えた。



鯖江市で実施されている移動サービス



【つつじバスについての意見】

- ・家からバス停が遠いしなかなか使う気にならない
- ・待ち時間が長すぎるし使い勝手が良くない

利用者も少ないのが現状



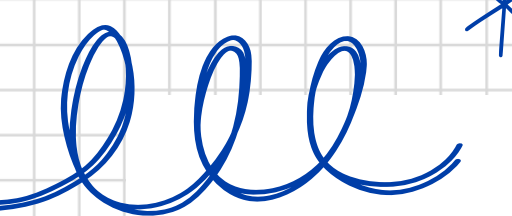
.....

【タクシー券配布についての意見】

- ・初乗り分は無料になるが、遠くへの移動となると高額になってしまう

限られた用途でしか使い勝手が良くない





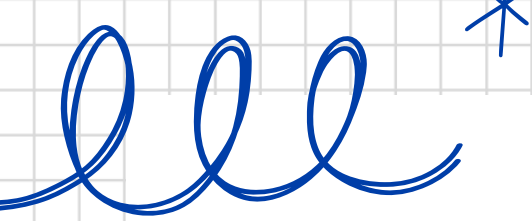
非営利法人による移動サービス



【福祉有償運送ってなに？】

国の認定を受けたNPO等の非営利法人や市町村が、障がい者や要介護者等を対象に、タクシーの半額近くの価格で家のドアから病院やスーパーなどの目的地のドアまで個別で輸送してくれるサービス。





非営利法人による移動サービス

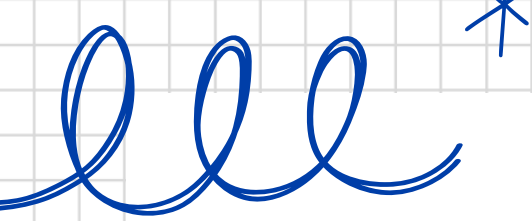


【鯖江市ではどうなってる？】

鯖江市内ではNPO法人の2社が運営を行っているが、鯖江市全域のカバーはできていない。

「運営自体は赤字だが、利用者からの要望の声が多くあり、運転を取りやめることはできない。」という悲痛な声が上がっている。そんな中、鯖江市社会福祉協議会が運営していた福祉有償運送が2年前から運転中止となっている。





福祉有償運送を運営する 事業者への補助金



- ・一番の問題は？

利用者からの要望が多いため運営を続けているが、

「毎年100万円近い赤字で民間がやっている」ということである。

- ・他の地域ではガソリン代や車両代の補助などが行われており、
ますます高齢者が増える未来に向け補填措置が必要だと考えた。

【現状】

交通の便がよくない。
要介護者の送迎で遅刻・早退・
欠勤しなければならない。



要介護者の移動のために
働き手の時間が奪われる。



高齢者が増えていく未来では
さらに問題になっていく。

【政策提言が実現された未来】

福祉有償運送を運営する事業者への補助金
を出すことで現在の事業者が継続可能、
さらに新たな事業者も出てくる可能性がある。



交通の便の発達により
働き手が仕事に集中することができ、
「仕事と介護の両立」がしやすくなる。
要介護者は安心して移動ができる。
鯖江市は住みやすく選ばれるまちになる。



市民、鯖江市、企業にとっての
三方良しになる。

2つの政策提言 まとめ



鯖江市への政策提言 その①

「介護にやさしいまちさばえ」を目指して

鯖江市LINE公式アカウントの充実

鯖江市への政策提言 その②

福祉有償運送を運営する事業者への補助金

